



あれほどたくさんふったはずの雪があっという間に解け、いつのまにか季節は春真ただ中です。

春といえば「春の小川」「春が来た」など、春にちなんだ曲がいくつも思い浮かびます。私は山育ちなので、春になればオタマジャクシを捕まえて家に持ち帰り親にいやな顔をされたり、家族で山菜取りをしててんぷらにして食べたりしたものです。

小川のさらさらと流れる音や、種まきの時期を教えてくれる「カッコウ」の声、田んぼに響きわたる「カエルの合唱」・・・そんな音が身近に聞こえる環境が今、どんどん失われています。とんびの鳴く声を聞いたことのある子どもは、いったいどれほどいるのでしょうか。

一方で、スマホやタブレット端末で好きな音楽を手軽に聞くことができる時代でもあります。プロの音楽家ではなくても、自作の音楽を手軽に配信し、大勢の人に聞いてもらうこともできます。

さらに、AIがものすごい勢いで進歩し、「〇〇風の音楽を作って」と入力すると、まるでそのアーティストの新曲のような音楽が出来上がるといいます。こんな時代の変化に私たちはどう向き合っていったらよいのか、教科書の共通教材を指導しながらつつい考えてしまいます。

さて、今年度から新たな研究主題『心動く瞬間（とき）をもとめて～音楽的な見方・考え方はたらかせ、表現する力を育む指導の在り方～』のもと、ICTを活用した活動にとらわれず、子ども達の表現力を育む指導法や単元構成を研究していきます。音楽の授業の中で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさを見出したりするということは、まさに子どもたち一人一人が心を動かして活動している瞬間なのではないかという考えからこの主題が設定されています。

環境や時代の変化にとらわれることなく、子どもたちが心から音楽を楽しみ、表現することに喜びを感じることができるよう、音楽部会員みんなとともに学びあいましょう。ご協力よろしくお願いいたします。

石教研音楽部会 部長
石狩市立南線小学校 湯浅 有葉

